

2015年度 第13回 スポーツ・健康科学研究科委員会議事録 要旨

日 時： 2016年 3月15日（火） 午後1時30分～午後3時07分
場 所： 東松山校舎 9号館会議室
構成員： 14名（定足数 8名）
出席数： 10名（定足数 充足）
欠席者： 1名
議 長： スポーツ・健康科学研究科委員長

《報告事項》

1. 2015年度 学位記授与式について（集合時間再確認）
議長より、標記の件について資料に基づき、3月22日、14:00から板橋校舎3号館3-0112教室で学位記授与式が実施されるので、13:50には集合すること、また、司会進行はスポーツ科学教授であることの再確認がなされた。
2. 2016年度 研究科内各種委員について
議長より、標記の件について資料に基づき、入試と広報を統合、図書と施設を統合した委員会にしたこと、入試ワーキンググループ責任者とカリキュラムワーキンググループ責任者が報告され、将来構想委員会については必要に応じ設置することが確認された。
3. 2016年度 スポーツ・健康科学研究法授業の年間スケジュールについて
議長より、標記の件について資料に基づき報告があった。
4. 2016年度 修士論文構想発表会の開催日時について
議長より、資料に基づき 2016年度の年間スケジュールのうち修士論文構想発表会が5月の連休が入る関係で、例年より1週遅い2016年5月21日（土）午前10時から実施する旨報告があった。
5. 2016年度 各種委員会委員の選出について
議長より、標記の件について資料に基づき、FD委員会はスポーツ科学科教授、図書館運営委員会については健康科学科准教授が担当することが確認された。

6. 2016年度 大学院評議会委員の改選について
議長より、標記の件について資料に基づき、スポーツ科学科教授退職後の残任期間を、2017年3月31日までスポーツ科学科教授が務めることが確認された。
7. その他
特になし。

《報告承認事項》

1. その他
特になし。

《議案》

1. 2016年度 研究科委員会開催スケジュールについて
議長より、資料に基づき、2016年度前期の研究科委員会の日程が報告された。原則として、研究科委員長会議、大学院評議会の翌日を予定しているが、後期については、学部の推薦入試や教授会の日程との関係から、追って決定することが補足された。
2. 2016年度 新生対面式・ガイダンスについて
議長の指名により、事務方から新生生に向けた研究科の対面式・ガイダンス日程について、学年暦に基づいて2016年4月5日（火）を予定していたが、審議の結果、学部の行事との関連で4月6日（水）に変更することが承認された。司会等の担当教員についても承認された。
日時：2016年4月6日（火）9時25分集合
会場：9406教室
3. その他
①大学院研究科の追加入試について
議長の指名により、健康科学科教授から、臨床検査技師国家試験の自己採点の結果により、不合格が想定される2名の学生が大学院入試を希望してきたとの経過説明があった。

今年度から大学院もインターネット出願になり、手続方法がこれまでと異なっていることから、検定料支払い、出願書提出等の締め切り時刻について、やや混乱をきたしたところがあり、それについて、学生とその両親から嘆願書が学長宛てに上申された。

それを受けて大学執行部が検討した結果、「学長裁定」という形で追加の入学試験を実施するよう命じられた。学長からは、追加とはいえ本来の入学試験と同様に、厳粛に行なうようにとの厳命であった。

そこで、研究科委員会です承をいただきたいと当該教授から要請され、これを踏まえ、研究科委員会で検討した結果、学生の不利益にならないよう、追加の入学試験を実施することが承認された。

日程については、2016年3月24日(木)に実施することが承認された。当日のスケジュールと実施要領は、3月5日(土)に実施した3月入試と同様とすることが確認された。会場については、事務方から追って連絡することが了承された。

また、追加の入試実施にあたり、事務方は板橋の大学院事務室ならびに財務部、学園総合情報センター等々の関係部署と調整することとなった。入試問題作成者、監督者等については、研究科委員長と入試委員長代行教授に一任することが決定した。

②大学院の改革について

議長より、学内の大学院改革ワーキンググループによって、大学院全体の統廃合を検討中であり、改革進行中であることから、他研究科と同様、本研究科も推薦入試制度を採用することについて、今後検討していきたいと表明された。

議長の指名により、スポーツ科学科教授から、現在の定員はスポーツ分野と健康分野と合わせて10名なので、一分野の定員を二分の一と考えると、定員割れをしているのが現実である。スポーツ分野と健康分野とでは、内容的に異なり、互換性もないことから専攻を分けて、1研究科2専攻としたほうが良いとの意見があった。

引き続き、大学院全体の改革に合わせて、新カリと4領域から2分野への組織編制に加えて本研究科の改革も検討していくこととされた。

以上